
まちづくりゲーム

「紡ぐ・ビジョン・MATCH－まちの未来をソウゾウする－」

2040年頃の地域を舞台に未来のライフスタイルを描こう

■ ゲーム作成の背景

- 都市計画・施策の内容が、常識や既存の制度の枠組みにとらわれすぎていないか？
- そこに暮らす人々の暮らしを見据えたものになっているだろうか？
 - 人々のこだわりのライフスタイルが共感を生み、コミュニティが育ち、そのコミュニティがまちの個性をつくっていくのではないか
- 地域に暮らす住民や行政職員、事業者がその立場の垣根なく協働し、ビジョンに基づく計画を立案するための方法論が求められている
- 多様なアイデアを出し合い、それらをもとにエリアのビジョンについて思いを巡らすことが求められている

■ ゲームの特徴

- 各地域の資源・強みが活かした新しいライフスタイルを創造できる
- 都市・地域づくりに関わる将来の技術やトレンドの組み合わせを常識や既存の制度の枠組みに捉われずに検討可能
- ライフスタイルが展開される空間を「シーン」として表現できる
- 豊かなシーンの積み重ねの上に、まちの将来像を思い描ける

■ゲームの特徴

<暮らしのシーンのイメージ>

ビジョン：トマト農家の暮らし

私は、社会人5年目で農業体験をして農業の楽しさに目覚めて栽培を始めた人です。熊本の山奥でトマトづくりを行っていたが、水の違いによってトマトの味はかわるのかと疑問を持ち、各地を回ってトマトの食べ比べを行い始めた。トマトのオフシーズンは、ベビーシッターなどを行い、自分がその時々にいる地域で誰かに依頼されたら子守りや子どもとの交流を行い、他人の子育てを頑張っている。トマト農家として必要な電力などの資源は、自分の周辺のコミュニティの家からつくられて余った電力を使用。



出典：まちのみらい研究会（特別委員会）事業報告資料（（公社）日本都市計画学会関西支部）

■ゲームの特徴

<暮らしのシーンのイメージ>

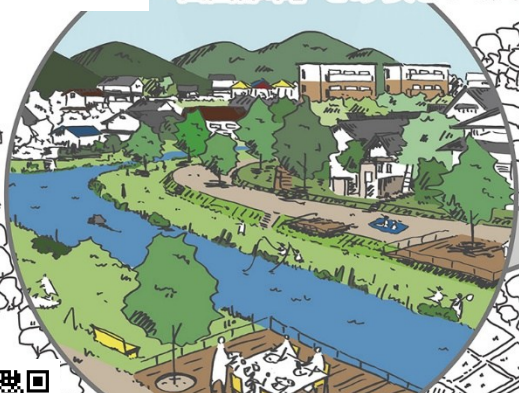
2040年の関西 郊外～地方都市～農山漁村 Part-1

ライフスタイルが紡ぐ
まちのみらい研究会

日本都市計画学会 関西支部



いまの時代だからこそ
「田園都市」をあらためて実現。



今日は仕事も友人とのランチも「川にわ」で
夕方は「地域かぞく」で新鮮バーベキュー。



自分たちが暮らす環境を
“知らない”はありえない。



巨大防潮堤は要らん！美しい海が見える風景の中で、
釣りをしながら、安心して暮らしたい。



土地・自然と関わりあいながら、遊び、
仕事するアーバン・ネイチャー・ライフ。



旅のコンシェルジュは地域の達人たち。
どんな体験ができるのかはあなた次第。

■ゲームの特徴

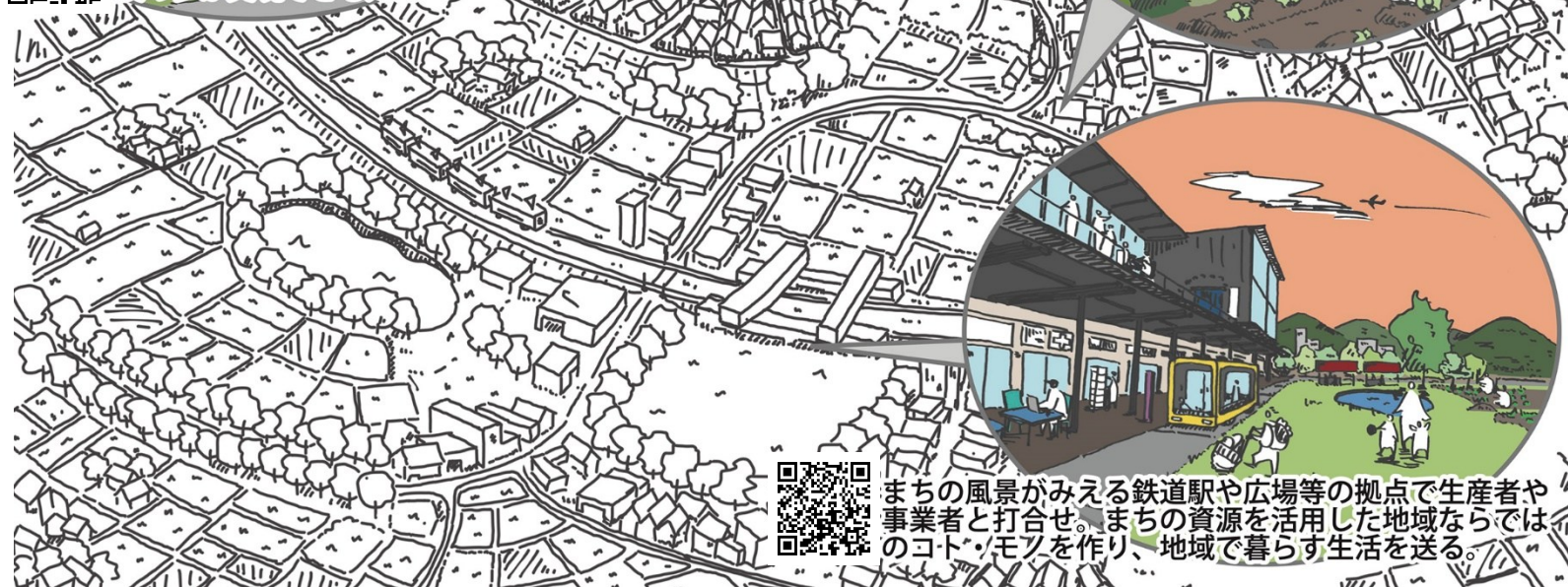
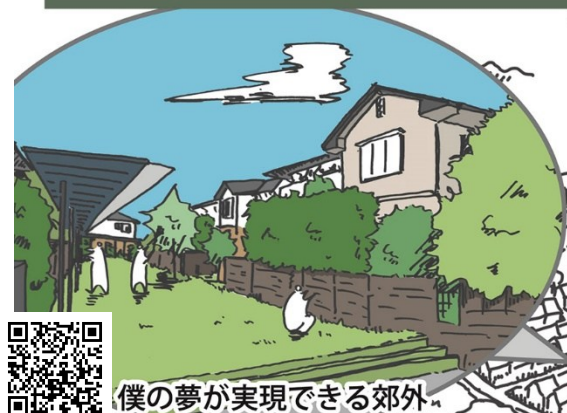
<暮らしのシーンのイメージ>

2040年の関西 郊外～地方都市～農山漁村 Part-2

ライフスタイルが紡ぐ
まちの未来 **研究会**

日本都市計画学会 関西支部

チャレンジ誘発・土地守型開発許可制度で
紡ぐ、地方のしごとと環境承継



■ ゲームの特徴

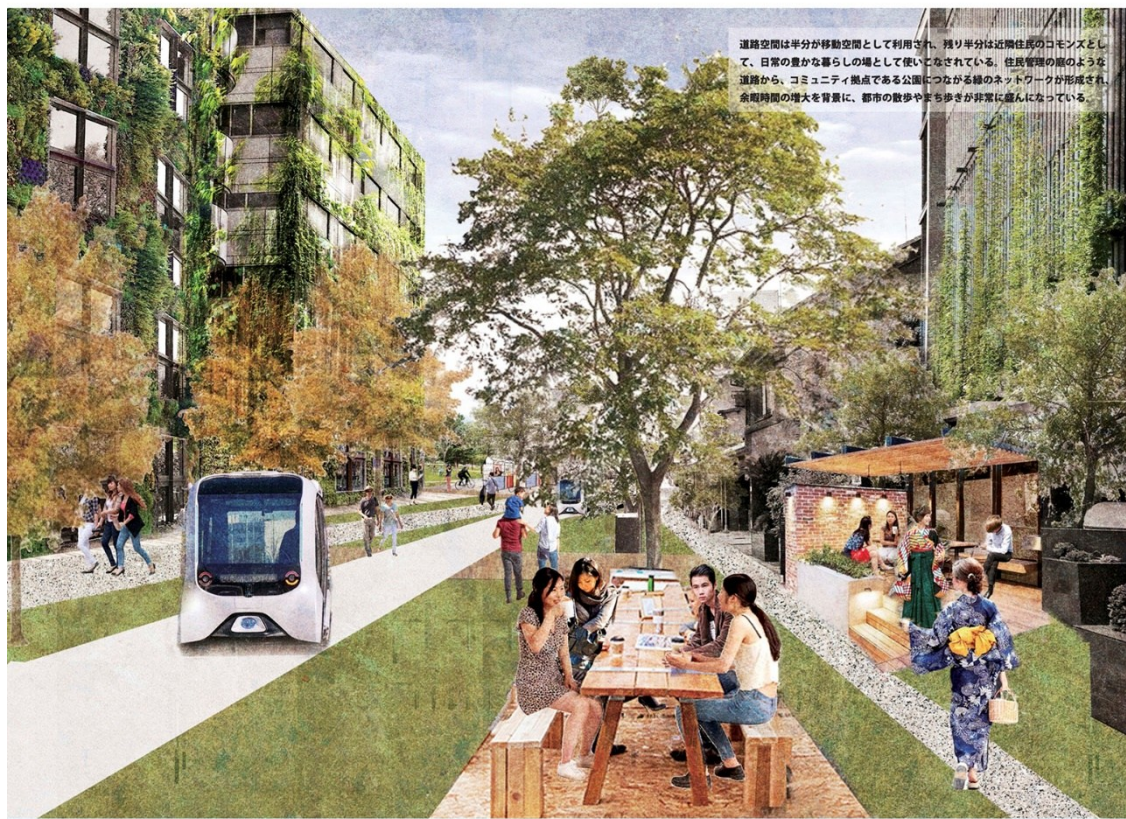
<暮らしのシーンのイメージ>

2040年の関西①

まちなかの多様なコモンズを居住者が使いこなすことでエリアの個性が生まれている

2040年の都市では、エリア特性と居住ニーズとのマッチングが進み、都市内の特定の場所を嗜好し、同じ価値観を持った者同士が住まうようになり、居住者の特徴がエリアのキャラクターとして反映されるようになる。
「都市計画共有地制度」により居住者が共有地を管理し、そこでコミュニティビジネスが次々に展開される。売り上げはエリアを使いこなすための予算となり、その予算を資本に居住者自らがエリアを魅力的に改編していく。

ライフスタイルが紡ぐ
まちのみらい研究会
日本都市計画学会 関西支部



- # 多様な空間を多様かつ豊かに利用した住まい方・働き方
- # 空き地や公共空間での住民による共同の土地利用管理
- # 経済・エネルギー・農作物の地域内循環

出典：ライフスタイルが紡ぐまちのみらい研究会「研究会活動成果」（（公社）日本都市計画学会関西支部）

■ どんなゲーム？

- 日本都市計画学会関西支部特別委員会「ライフスタイルが紡ぐまちのみらい研究会」が企画・制作したまちづくりゲーム
- カードゲームのデータ・説明書は以下のQRコードから無償でダウンロードでき、自由に利用可能



ダウンロード用URL



■ゲームの進め方

所用時間

45~80分程度

人数

5～6人

使用ツール

①トレンドカード7枚

今起きつつあるまたは主流化すると予想される未来におけるライフスタイルや価値観のトレンド、技術・制度などを14のカテゴリーで整理したカード

②ビジョンシート2枚

①を用いて地域における“新しい暮らしのシーン”を参加者と共有できるようにするため、「どのような主体が」「いつ」「誰と」「何をしている」シーンであるかを書きまとめる用紙



トレンドカード

[illegible]

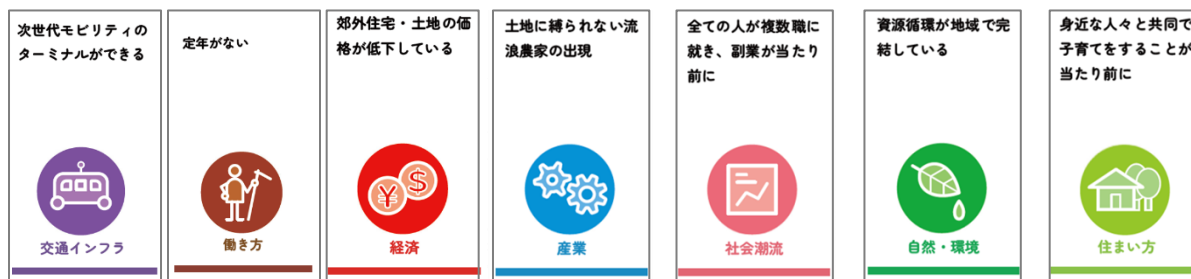
ビジョンシート

■ゲームの進め方

STEP 1

シンキング (15分)

01 進行役が1人7枚ずつトレンドカードを配ります。



02 配られたトレンドカードから暮らしのシーンをイメージし、未来の架空の生活者になりきって「ビジョンシート」に記入します。（できるだけ複数のトレンドカードを組み合わせ考えてみましょう）



【ビジョンシート】記入例		
次世代モビリティのターミナルができる	定年がない	郊外住宅・土地の価格が低下している
交通インフラ	働き方	経済
タイトル いろんなプロに仕事のことを教えてもらえて、将来の夢がふくらむまち		
私は 将来、どんな大人になろうか悩む中学生		
暮らしのシーン （いつ（季節や時間など）・どこで・誰と・何を） 私は学校帰りにいつも立ち寄るスペースがあります。 家の近くまで送られてくれる。地域の自動運転バスで7分が乗れる。近隣のターミナルにできた拠点です。 大きな施設で広々としたのびのびした施設です。近隣の施設は、私が土地を買収し、家を建てたのでつくられたそうです。 近隣の施設は、70歳を過ぎた近隣の老人にこの施設でお仕事をしています。 このバスで通学している、いろんな大人の人と話をします。 近隣の施設にいろいろなプロが住んでいて、いろんな仕事をしている様子を見たり、近隣の施設に話を聞いて、仕事の手助けも助けてもらいます。 いろんな働き方があるんだなと思います。自分の将来の働き方を考えます。		
使用したトレンドカード+補足説明（あれば） （交通インフラ）次世代モビリティのターミナルが暮らしの中心となる （働き方）定年がない （経済）郊外住宅・土地の価格が低下している		

トレンドカードを
組み合わせて記入

ビジョンカードの一例

持て余している場所
を気軽にレンタルス
ペースにできる



土地利用

身近な人々と共同で
子育てをすることが
当たり前



住まい方

物々交換サービスの
普及



経済

あらゆる趣味嗜好の
人とのマッチングが
可能になっている



交流・コミュニティ

週に何日か地域食堂
で食事をする



まちの施設・機能

ビジョンシートの一例

タイトル
いろいろなプロに仕事のことを教えてもらえて、将来の夢がふくらむまち
私は
将来、どんな大人になろうか悩む中学生
です。
暮らしのシーン[いつ(季節や時間など)・どこで・誰と・何をしている]
私は学校帰りにいつも立ち寄るスペースがあります。 家の近くまで迎えにきてくれる、地域の自動運転モビリティが集まる国道沿いのターミナルにできた拠点です。 大きな施設で広くてのびのびした施設です。家族の話では、市が土地を安く購入できたからゆったりつくれたそうです。 友達のお父さんやお母さん、70才を過ぎた近所のおじさんもこの拠点でお仕事をしています。 このスペースで自習していると、いろいろな大人のひとと話ができます。 図面を描いている人やプログラムを打っている人など、仕事している様子を見たり、 気軽にお話しできて、仕事の裏事情も教えてくれます。 いろんな働き方があるんだなあと、自分の将来の働き方を思案中です。
使用したトレンドカード+補足説明(あれば)
〈交通インフラ〉次世代モビリティの拠点が新たなまちの中心となる 〈働き方〉定年がない 〈経済〉郊外住宅・土地の価格が低下している

■ゲームの進め方

STEP 2 プレゼンテーション（15分<3分×5人>）

ビジョンシートと使用したトレンドカードをテーブルに出し、メンバーに向けて各自プレゼンテーションします。



STEP 3 シンキング+プレゼンテーション（2回目）

- 01 残ったトレンドカードを用いてビジョンシートの2枚目に理想の暮らし方のシーンを記入します。
- 02 ビジョンシートとトレンドカードをもとにメンバーに向けてプレゼンテーションします。

■ゲームの進め方

STEP 4 投票 (5分)

手元に残ったトレンドカードを用いて自分以外のシーンで共感したもの、よいと思ったものに投票します。

手元に2枚残っていれば2票投票できます

手元のカードをシーン作成で使ってしまった方には投票券が1枚もらえます⇒



STEP 5 ベストシーン賞の発表

一番多くのカード（シーンを作成した際に使用したトレンドカード+投票券）の枚数が集まったものをベストシーン賞とします。



STEP 6 共有・振り返り

各テーブルのベストシーン賞、そのほかどのような暮らしのシーンが出されたかを各テーブルの代表者より発表していただきます。

■次回以降の展開

今回出されたシーンを次回以降にどのように活用するか

- 今回思い描いていただいたシーンは、皆さんが望む“理想の暮らしのシーン”です。
- ビジョンシートに描かれた暮らしのシーン（ライフスタイルシーン）を実現することが今後のまちづくりには必要です。
- 皆さんの暮らしのシーンの積み重ねが“まちの将来像”となります。
- 次回は今回のシーンを振り返り、目指す暮らしや暮らしの価値観を皆で共有しながら“まちの将来像”を考えるとともに、暮らしのシーンとまちの将来像を実現するために必要と考える“まちの機能”について考えます。

R6～7年度のワークショップの流れ

